

科目名	単位 (時間数)	時期	実習施設 (実習場所)	
助産学実習Ⅱ 分娩期	3 (135)	7-12月	①京都医療センター (2-3 病棟) ②大阪医療センター (西 5 病棟) ③大阪南医療センター (西 3 病棟) ④東近江総合医療センター (南 3 病棟) ⑤市立奈良病院 (5 東病棟) ⑥足立病院 ⑦中部産婦人科医院 ⑧京都第一赤十字病院	
科目目標	分娩期の助産診断と産婦の状態に応じて、安全・安楽に分娩介助ができる能力を養うことができる。			
内 容		時間数	実習場所	指導者
1. 分娩期の助産診断・技術 2. 助産過程の展開 3. 正常分娩の介助 4. 異常分娩の助産  保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部 改正 (H20) 「分べんの取扱いの実習については、分べんの自然な経過を理解するため、助産師又は医師の監督の下に、学生 1 人につき正常産を 10 回程度直接取扱うことを目安とする。取り扱う分べんは、原則として正期産・経膈分べん・頭位単胎とし、分べん第 1 期から第 3 期終了より 2 時間までとする」  ○分娩介助 10 回程度履修するため、夜間・休日の待機実習体制をとる。(全施設)		17 日間 135 時間	①京都医療センター ②大阪医療センター ③大阪南医療センター ④東近江総合医療センター ⑤市立奈良病院 ⑥足立病院 ⑦中部産婦人科 ⑧京都第一赤十字病院  ※①～⑧のうちの複数箇所 所で実習を行う。	看護師長 副看護師長 実習指導者  教員
評価方法	・履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。 分娩介助 1 例ごとに実習評価表にて評価する (100 点) 科目の評価は、分娩介助 7 例目以上を評価対象とする。			